WNU SI 2011フェローの声

番号	質問(↓)＼日本人通算番号(→)	16	17	18
1	参加年次	2011年	2011年	2011年
2	6週間という期間をどう思いますか。	今年度のフェロー78名とのネットワークを構築するには適当。レクチャー・グループワークについては、経済・法などのテクニカルでないテーマについてはやや表面的すぎる感があり、これらのテーマについてより深い議論をするために、プラス1週間としても良いと思う。	適切だと思います。グループワークやフェローとの交流に十分な時間が割けました。	適切かつ限度。長いほど中身の充実、議論の深さは期待できるが、6週間は職場、家族から離れる限界でもある。 アジアからの派遣者が20代後半～30代前半の若手なのに対し、西欧諸国からは30代後半～40程度のマネジメントレベルが中心(プラントマネジャー等)。両者で経験値にかなり差を感じた。アジアからのフェローもマネジメントクラスであれば、より対等に渡り合えるのではないか。マネジメントクラスが参加できる
3	研修での講義内容がその後の業務に役立ったという感じはありますか。	IAEA, WANO, WNA, INPO, NRCなど、海外の情報源についての知識(何があって、どうアクセスできるのか)は、今後の業務で活用する機会があると思う。また各国の規制体系やパブリックコミュニケーションの手法など、今後、日本の原子力産業界のあり方を議論する上では、貴重な情報であるとおもう。	講義で得た知識を直接使用することはあまりないと思いますが、今後フェローとの交流を継続する上では必要な知識だと思います。	視野が広くなったように感じる。また、講義中、できるだけ質問をしようと頭をフル回転して聞いていたためか、普段の業務、会議においても効果的に疑問の提示や発言が出来るようになったと感じている。
4	ワーキンググループ活動の方式(進め方など)、内容でその後の業務に役立ったという感じはありますか。 あるとすれば、例えばどんな？	多様な専門性、多様なカルチャーでの議論や共同作業を効果的に行うやり方は今後役立つと感じた。すなわち、 1. ゴール、背景、議論・作業の進め方(フレームワーク)など、同じ情報に対しても、それぞれが全く異なるイメージを持つため、それらを噛み砕き、明確な共通認識を持った上ですすめること。 2. 言語やカルチャーのため発言に消極的なフェローでも、貴重な情報や経験を持っていることが多く、それらの情報を引き出すための工夫(連帯感、居心地、信頼と自信を与えることな	外国の方たちと議論するという貴重な経験ができましたので、将来同じ状況になったとき、より積極的に議論に関わっていけると思います。	ゴールに向かうプロセスを具体的にイメージする慣習がついたように思う。普段の業務では自分ひとりが若手という状況なので会議中も「メモ取り」が主な役割程度の認識であったが、「積極的に貢献すべし」という心構えが出来たと感じている。
5	Forum Issueの検討プロセス(やり方、時間、他)は満足でしたか。	「与えられた時間の中で成果を出し、発表する」というコンセプトであったため、適当だったと思う。メンバーも共通の関心と異なる経験、考え方を持っており、そのメンバーでの議論は自身の業務や経験に新しい解釈を与えてくれ、大変有意義であった。	満足です。課題が漠然としており、作業内容がはっきりするまではフェローのまとまりがなく、全員の協力を得るのに苦労しました。これもよい経験だと思います。	もう少し時間が欲しかった。「社会受容性」をテーマに選んだが、こうした広いかつ主観的なテーマについては、「成果物を出す」ことよりも「議論して意識合わせをする」という点に重きを置くべきであると感じている。しかし、私のグループでは「成果を出す」というコンセプトがあまりに強調されてしまったために、最初の段階での議論が十分でないままに「製作」へと走り出してしまったと感じており、その点では不満が残っている。(成果物・プレゼンのパフォーマンスとしてはこれ以上ないものが出
6	講義後のPlenaryはやり方、時間で改善したい点はありましたか。	概ね適当だったと思う。ある程度、類似の質問を集約してpresenterに包括的な回答してもらっても良いかも知れない。	特にありません。講師の方がフェローの質問を反復するのはよいことですので、今後も続けていただきたいと思います。	講義によっては、表面的過ぎてどこに疑問を感じればいいのかが分からない、WGでの議論も盛り上がらないというものもあった。(核不拡散などは講義に基づかない「素朴な疑問」のようなものしか出てこず、「政治的に答えられない」というような回答も多く、あまり面白みを感じなかった。法律もしかり。)
7	研修参加前の期待に反した点はどんなものがありましたか。	予想以上に忙しかった。	私の英語の語いの不足等により、部分的にしか内容を理解できない講義があったことです。	多忙による寝不足と体調不良。
8	研修全体が、WNUの目指す「指導者育成」になっていると思う点は？	Leadership, diversity, networkについて意識させる機会が多いこと。第1週にLeadershipについてのレクチャーがあり、研修の早い段階で、意識すべき点が明確になったことも有効であった。	多くの国の同年代の若者と交流ができる点です。	「指導者」のロールモデルとなるような30代後半のフェローとの出会いは、職場に同年代～少し先輩がいない私にとって貴重な体験であった。これまで自分がリーダーシップを発揮するイメージにピンとこないでいたが、こうした経験を通じて具体的に「リーダーシップ」を意識できるようになった。
9	同上、なっていない点は？	レクチャーやグループへの参加態度次第では、Leadershipについて得るものも少なくなると思う。そういったフェローを少なくするために、英語力にかかわらずフェロー全員にそれぞれ強制的にワーキンググループでのリーダーや議論のオーガナイザー、何らかのプレゼンテーションをさせるといったことも効果	研修終了後もフェロー同士が交流する機会を提供していただけると、より良いと思います。	欧米とアジアでは語学の壁があるのは事実なので、せめて経験値で対抗できる人材を揃えた方がいいかもしれない。また、ワーキンググループによってはリーダーが固定化しており、他のフェローがリーダーシップを発揮する機会が失われている場合がある。
10	研修内容で、あれが有れば良い、と思う点はありましたか。	研修期間中、カナダからのフェローの発案で、フェローによるボランタリーで題材自由のプレゼンテーション会があり、10名程度が発表した。アジア人のプレゼンターが少なかったが、それはおそらく英語力によるものに加え、ボランタリーなプレゼンテーションの経験がなく、雰囲気がわからないために敬遠しているのではないかと感じた。こういったボランタリーなプレゼンテーション会を、期間を開けて2回行えば、2回目には1回目のプレゼンテーションを聞いて発信意欲の湧いたアジア人フェローの参加を促し、よりアジア人フェローの経験とネットワーキ	技術に限らず、フェローが関心を持っていることを発表するという機会が、カナダのフェローにより自主的に企画されました。来年以降もあると良いと思います。	特になし 予習・復習(レポートの形でまとめると自分なりのフィードバックが出来て効果的)やプレゼン準備のための時間的余裕がほしいと感じることがあった。特に体調管理の面も考慮すると少しスケジュール過密と感じた。
11	研修全体で、あれはあまり意味がないというものはありましたか。	テクニカルツアーの各施設での説明、見学がやや表面的で、移動時間をかけた割には得るものが少ないと感じた。スケジュールが許せば、レクチャーの内容とリンクした見学やテクニカルツアー中のグループワークなどがあればより効果的に	特にありません。	テクニカルツアーは移動時間が長かった割には、残るものが少なかった。(予習が足りなかった、と言われればその通りなのですが…)

2011.8作成

WNU SI 2011フェローの声

番号	質問(↓)＼日本人通算番号(→)	16	17	18
1	参加年次	2011年	2011年	2011年
12	周囲の同僚に参加を勧めたいと思いますか。	思う。 1. 業務上の海外との関係の有無によらず、自身・会社・日本の原子力業界の将来を考える上で大変よい知識と感性を得ることができる。 2. 業務だけでなく、極めて個人的なネットワーク(友達)ができるため、今後の自身の成長の可能性を得ることができる。 3. 研修を通じて、各国フェローが日本の文化の特異性について関心が高いこと、また自社の同僚ないし日本の原子力業界で働く者であれば、他の国の参加者と比べて多様で特異な経験を有しているのではないかと感じた。研修への貢献という観点からも、同僚および日本からの参加を薦めたい。	他では決してできない経験ができますので、ぜひ勧めたいと思います。	30代半ばの若手管理職に是非勧めたいと思う。 今回の研修は非常に刺激になったし、とてつもなく貴重な経験をしたと感じており、私なりにたくさんのことを学んだ。しかし、本来の「リーダーシップ」育成という観点からは、もう少し経験値のある人材であれば、言葉は悪いがワーキンググループの議論を「乗っ取る」ことができると思う。
13	私自身は「研修で大きな益を得るには、原子力の知識、英語力、指導性のうち二つは欲しい、一つでは苦しい」と考えます。この考え方にご意見ありますか(賛成、反対、別意見、何れも歓迎)。	同意。ただし、知識、英語力、指導性について、私は以下のとおり解釈している。 知識:机上で得た知識、業務経験、その他業務で得た知識、経験、ものの考え方や感じ方。 英語力:英語を理解し、発信する力および英語を理解しようとし、発信しようとする態度、姿勢(質問すること、聞き返すこと、相手に伝わるように工夫して話すこと、など)。 指導性:周囲の状況に応じて、自分のできること(議論のリードのみならず、アイデア出し、雰囲気作り、など)でレクチャー、グループワークへ貢献しようとする態度。	賛成です。英語力は必須ではないかと思います。原子力の知識は講義の内容を理解する助けになります。指導性はフェローとの交流に役立ちます。	基本的に賛成。 ただし、毎日のトピックに対して前もって疑問点や自国の状況を理解しておくだけでワーキンググループやプレナリーセッションでの貢献度、学習度はかなり変わる。毎日の予習・復習は欠かせない。 ワーキンググループBでは自分以外ほぼ全員ネイティブ、自分が最年少、(自分ですべて決定してしまうような)強引なリーダー、という状況で自分の発言が無視されることもあり、自信喪失。なかなか発言することが出来ず、苦しい時間を過ごし
14	研修終了後、他のフェローとの往来、連絡の実績はどのくらいありますか。	現時点(終了後2日)では、帰国連絡程度。	今後海外の原子力のニュースに関心を持ち、メール等での交流を続けたいと思います。	ほぼ毎日、Facebookを通じてコンタクトを取っている。(ただしFacebookを利用していない人たちとは簡単に疎遠になってしまいそう。メーリングリストを作ったらいいのかなあ。)
15	同上、最近1年ではどうですか。	ー	別途報告致します。	ー
16	その他、研修で感じた点があれば何でもお書きください。	予想以上に忙しく、期待以上に充実していた。リーダーシップ研修というものが日本ではあまり広く認知されておらず、一部では本研修への参加に消極的であると聞いたが、残念でもったいなく思う。今後の研修報告や日常業務を通じて、社内外へ本研修が有意義であることを伝えていければと思う。	原子力産業の世界との関わりの強さを実感致しました。	あまりに鮮烈で濃密な日々だったので、まだ冷静に描写できないというのが正直なところ。たくさん苦しみ、たくさん楽しみ、たくさん学び、間違いなく私にとってこれまでで最大のインパクトのある体験だった。「ネットワークつくり」なんていう冷めた言葉ではなく、各フェローやメンターと個人的に親密な人間関係を築けたことも財産であると感じている。

2011.8作成